

おの 100 で観えてきた自分

「おの 100 やろう！！」

ずっと明るく私を誘ってくれた優しい先輩。

「いやあ、まあとりあえずやってみます。」

私は、この時ずっと私をめげずに誘ってくれた先輩に感謝している。私の中の生き方を揺さぶってくれる機会を与えてくれたからです。

そんなとりあえずやるか・・・といった感じで始まった私とおの 100 との出会い。

そんな私がおの 100 に参加してみて得た経験を「出会い。」、「自分の弱さとの戦い。」、「日本人。」の三つに分けて書いていきます。

まず、「出会い。」私はおの 100 で様々な人に出会いました。様々な大学の方、社会人ボラ、KAKIさん、ねえやん、参加小学生と保護者、おの 100 に協賛して下さった方、大学の関係者等、おの 100 にはたくさんの出会いがあります。その方々と私は、どれだけ本気で言葉を交わせたでしょうか。私は出逢いを大事にできている人間では無いのでもっといろいろな方と話すチャンスが与えられていたことに今になって気付いています。これは、私の今後の課題だなと思っています。出逢いに感謝するというのは言葉で分かっているだけで実際は行動できていない自分がいたことに気付かされました。『一期一会』とはよく言いますが、本当にそれくらい出逢って大切なものだとおの 100 に参加して感じました。これを読んでいるまだ第 8 回に参加できる方には、是非本音でぶつかる勇気を持ってほしいと思います。

次に、「自分の弱さとの戦い。」私にはつくづく勇気がありませんでした。頭の中でああしようかな・・・と思うだけ。おの 100 のミーティングでも自分が気付いても誰かが気付くように仕向ける。責任が出てくるとか、発言することで場が悪くなるんじゃないか、見当違いな発言じゃないのかとか頭の中でぐるぐるぐるした結果何もしない。そして何もしなかった自分を自己嫌悪。いやあ、本当にドネガティブ、ネガ松と言われるくらい。ネガティブな時期がありました。どう考えてもポジティブな発想ができない。頑張っても仕方がないんじゃない。そして、結局何もできない自分が嫌だ。本当に負の感情をどう処理したらいいのかで悩みました。「できる、できる、必ずできる」ではなく、「できない、できない、必ずできない」という自分を払拭するためにいろいろ試しました。最近ようやく気付けたのですが、私には「素直さ」が欠けていたのだと思います。素直に「できる、できる、必ずできる」はいいよというのを受け入れることを拒んでいたのです。素直と従順は違うと私は考えています。只何でも従順に従うのではなく、とりあえず素直に人の意見を聞き入れてみる。そして取り入れた結果自分には合わないと思えば、やめればいいし、いいと思うものはどんどん取り入れていくその素直な姿勢が自分の弱さを克服できる第一歩なんだと気付かされました。

最後に、「日本人」私は、「福岡会議」、「伊勢講習」に参加できて本当に良かったと思っています。日本人として生き、日本人として散る。その人生の生き様を本当に考えさせられた

講習でした。忘れかけている何かを取りもどす。確かに、今の世の中効率よく社会が回る仕組みはできたと思います。けれど、何かが足りない。「あいさつ」、「感謝の言葉」、「心」当たり前前に昔あったものが失われてきている。「温故知新」という言葉がありますが、今一度日本人の心といった精神を見つめ直す機会を大学時代にできたことは本当に私にとって財産だと感じています。

おわりに、このような機会を提供して下さった、KAKIさん、ねえやんをはじめ、参加小学生と保護者、おの100に協賛して下さった方、大学の関係者のみなさん、学生ボラ、社会人ボラの方に感謝しても感謝が尽きることはありません。

「ありがとうございます。」

この感謝の気持ちを次は社会のための行動の源としてこれから頑張っていきます。